

■理工学研究科の入学受入れの方針（Admission Policy；A P）

理工学研究科と各コースの「理念・目的」「教育目標（人材育成方針）」、D P、C Pを踏まえ、以下のように入学受入れの方針を定める。

（A P 1）【求める学生像】

博士前期課程

学部で培った基礎・専門知識を基にして、博士前期課程では新たな科学技術の創造と活用に意欲的かつ継続的に取り組み、社会で幅広く活躍する技術者、研究者などを目指す人材の養成を目的としている。そのため、博士前期課程では、理工系学部諸分野の専門基礎知識を基にさらに高度の学識を求め、創造性豊かな研究活動能力を身に付け、持続可能な社会への貢献を望む人を歓迎する。

<物質生命コース>

- （1）物質や生命の本質をさらに奥深く追究し、あるいは新規な物質の創成を試みたいと思う人。
- （2）人の命を尊び、生活の質を向上させ、人類が永く繁栄するために、自らの知識や智恵を役立てたいと思う人。

<情報科学コース>

- （1）変革の速度がますます速くなる多様な情報科学の分野において、幅広い知識の修得と高度な研究・開発手法の獲得を目指す人。
- （2）幅広い知識と先を見通す能力を身につけ、先導的に情報関連技術を開発しそれらに基づいた新サービス開拓を目指す人。

<システムデザインコース>

- （1）科学技術とその応用に関心をもち、理工学の知識を実社会に役立てたいと考えている人。
- （2）自ら目標を立て、自発的に学び、率先して行動することができ、実社会におけるリーダーを目指す人。

博士後期課程

博士前期課程で培った高度な専門的学識と研究活動能力を基にして、博士後期課程では専門分野において自立して独創的な研究を遂行できる人材の養成を目的としている。そのため、博士前期課程修了もしくは同等水準の諸分野専門的学力を備えた上で、専門分野において自立した研究者を目指す人を歓迎する。

<各コース共通>

- （1）高い倫理観を持ち、専門分野における幅広い知識および専門的学識に基づく分析能力、問題解決能力を有する人。
- （2）専門分野において、高度で独創性のある研究を持続的に行い、その成果の発表や表現を通じて専門分野の学問的発展に寄与する意欲と適性を有する人。

（A P 2）【入学者の選考方針】

博士前期課程・博士後期課程共通

入学者の選考に当たっては、本研究科と各コースの「求める学生像」を考慮しつつ、細心の注意を払って、公平かつ適正に選考を行う。

(A P 3) 【大学院入学までに身に付けておくべき教科・科目等】

博士前期課程

博士前期課程の入学試験においては、全員が受験する英語の他に、理工学の基礎となる基礎選択科目（数学、物理、化学、生物から選択）と、各コースの柱となる専門選択科目（下記参照）を筆記試験として配置しており、それらの中からコースと志望研究室に最も関係の深い科目を選択受験することになる。また、面接試験を行い入学の適性を判断する。したがって、博士前期課程の入学にあたっては、各専門分野の基礎となる科目の十分な知識をもつとともに、広く世界や社会の動きに係わる一般常識的な知識を有することを求める。また、グローバル化した世界で活躍するための手段として必要な英語の文章読解力、表現力、コミュニケーション能力を求める。

<物質生命コース>

物質・ナノサイエンス分野、化学・ライフサイエンス分野、環境・エネルギー分野とその境界領域を含む理学関連科目や、それらに基づく工学関連科目

<情報科学コース>

システムソフトウェア・ネットワーク分野、メディア技術分野、さらには情報数理分野を含む多様な情報科学の分野において基礎となる、ソフトウェア、通信方式、画像処理、データ処理の関連科目

<システムデザインコース>

機械工学分野、電気電子工学分野、又は経営工学分野の基礎を理解するための、材料力学、流体力学、制御工学、回路理論、プログラミング、インダストリアルエンジニアリングの関連科目

博士後期課程

<全コース共通>

博士後期課程の入学試験においては、面接及び口述試験を行い、身上、学力、研究計画等に基づき入学の適性を判断する。博士後期課程の入学にあたっては、専門分野の基礎知識や応用能力を有するだけでなく、研究成果を学会、研究会等で発表するためのプレゼンテーション能力と、学術論文として纏めるのに必要な文章表現力を求める。

以上